

第8、9年生 高森ふるさと学「地域」 学習構想案

日時 令和8年7月2日(木) 第5校時

場所 8・9年生ホール(2棟2F)

指導者 教諭 福本優華・松野礼生・奥村早代

1 単元構想

単元名	よりよい高森町にするために～少子高齢化をふまえた町づくり～		
単元の目標	高森町の歴史・文化・自然・コミュニティなどの良さや課題について調べる学習や表現する学習を通して、 (1)他の地域と比べ、地域の良さを捉え、地域の方や地域に携わる方々の思いに気づき、 (2)自らが立てた課題について、地域のために自分ができることを考え、 (3)PBLを通して、自らの考えた課題解決に向けた具体的な案を町に提案できる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①地域には様々なよさや課題があり地域の人々やそこに携わっている人々の思いを理解している。 ②地域のよさや課題をつかむために、目的に応じて情報を収集したり取材したりしている。 ③地域のために自分たちが実行できたことは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①地域の特徴について、これまでの生活経験や高森ふるさと学での学習などから地域のよさや課題を明らかにしている。 ②課題解決に向け、収集した情報から必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考えている。 ③地域のために実行できる取組について相手や目的に応じて、企画し、適切な方法で表現している。	①課題解決に向けて自らの取組を振り返る活動を通して、自らの学びを把握、調整し、解決への方法を決定しながら探究的な学習に取り組み続けようとしている。 ②地域のよさや課題について調べる活動を通して、得た知識や他者の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③地域のために自分たちができることを企画し、提案することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。
単元終了時の児童・生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
ふるさとの魅力や課題を探究し、自ら計画を立てて他者と協働し、よりよいふるさとのために自分ができることを考え行動しようとする生徒。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
「今まで以上に、高森町や東学園校区を活性化させるために、今の私たちにできることは何だろうか。」		地域の良さや課題について多面的・多角的に捉え、地域と自分とのかかわりの中で、自己の取組や生き方について考えること。	
指導計画と評価計画(25時間取扱い 本時9/25)			
Project	過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)
<small>★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」</small>			
P1	一	2	1【課題の設定】 ・高森町役場の方からの話を聞き、地域の特徴を捉え、地域活性化に向けて課題を見つけ、地域のためにできることを考える。 ・課題として挙げた中から関心のある内容を取り上げ具体的に調べる計画を立てる。
	二	5/6 本時	2【情報の収集】 ・企画書作成のためにチームまたは個人で、役場や観光物産館などのまちづくりに携わる方々から情報を収集する。 3【整理・分析】 ・情報を収集し、調べたことから分かったことをチームまたは個人でまとめる。
	三	2	4【まとめ・表現】 ・専門家の方に、作成した企画書を発表し、専門家から評価をもらい、課題解決に向けて必要なことについて学ぶ。
			Project 1
評価の観点等 ★【思①】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域の特徴についてこれまでの生活経験や高森ふるさと学での学習などから地域のよさや課題を明らかにしている。 【態①】(ワークシート・発言・行動観察) 【態③】(企画書・発言・行動観察) ★【知②】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域のよさや課題をつかむために、目的に応じて情報を収集したり取材したりしている。 ★【思②】(ワークシート・発言・行動観察) ・収集した情報から課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考えている。 【態②】(発言・行動観察) ・自らの学びを把握、調整し、解決への方法を決定しながら探究的な活動に取り組もうとしている。 ★【思③】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域のために実行できる取組について相手や目的に応じて企画し適切な方法で表現している。 ★【態③】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域のために自分たちができることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に			

				参画しようとしている。
P2 ～ P3	四	8	<p>5【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の評価を受け、課題解決に向けて必要な情報について調査方法を検討し、再調査を行う。 <p>6【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査したことを整理し、自分たちのテーマについての特徴を明らかにしながら提案する方法について考察する。 	<p>★【思②】（発言・行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 <p>★【思③】（ワークシート・発言・行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報から課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考えている。 <p>【態①】（ワークシート・発言・行動観察）</p>
	五	4	<p>7【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PJまたは個人で行った内容についてまとめ、子ども議会に向けた内容を発信する仕方を工夫する。 <p>8【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画に携わっていただいた方や他の企画の意見やアドバイスをもとに報告内容を練り直す。 	<p>★【知①】（プレゼン・動画・発言・行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトの報告を聞く中で、地域には様々なよさや課題があり地域の人々やそこに携わっている人々の思いを理解している。 <p>【思③】（ワークシート・発言・行動観察）</p>
	六	3	<p>9【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの企画ごとに相手や目的に応じて学びを発信する。（文化祭での発表・動画配信・高森町子ども議会など） <p>10【課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をふり返り、個人で新たな課題を設定する。 	<p>★【知③】（プレゼン・動画・発言・行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のために自分たちが実行できたことは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 <p>★【態①】（ワークシート・発言・行動観察）</p>

Project 2～3

2 単元における系統及び児童・生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)			
<p>中学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の目標「高森町に誇りを持ち、自己の生き方を考え、表現する力の育成」をもとに、探究課題「高森町のこれからと地域貢献」の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定し、単元を構成している。また、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を学年ごとに重点指導事項として設定し、それらの力が育まれ活用されるように単元を構成している。</p>			
教材・題材の価値			
<p>本教材は、これまでの高森ふるさと学における地域素材に関する調べ学習や体験学習により高まった故郷への思いや課題意識をもとに、よりよい町づくりに向けて地域のよさを再発見したり課題の解決方法を考えたりすることで、地域のためにできることを実行する。よりよい町づくりについて考えたり、自分たちにできることを実行したりすることは、自分や地域を誇りに思う気持ちを育み、高め、地域社会に貢献しようとする児童生徒を育成することに適している。また、高森ふるさと学の集大成として実施する「高森町子ども議会」における町の施策に対する提案においても、本単元で学習した内容や育成された資質・能力が生かされていくことが期待できる。</p>			
本単元における系統			
<p>Sブロック（3～4年生） 「身近な地域を知ろう・伝えよう」 校区の自然や身近な暮らしにある価値あることについて調べ、地域の方々に伝える。</p>	<p>Mブロック（5～7年生） 「町の魅力を発信しよう」 高森町の自然や暮らしにある価値あることについて調べ、自分たちなりの方法で、町内外に発信する。</p>	<p>Lブロック（8～9年生） プロジェクト1：地域の課題にむけて 地域の現状をふまえ、活性化につながる企画を考え、様々な視点から情報の収集・分析・整理を行う。</p>	<p>プロジェクト3：発信の仕方を考える。 伝える相手や目的に応じて学びを発信する仕方を工夫する。</p> <p>プロジェクト2：課題解決にむけた企画作成 実現可能な企画作成にむけて考え、学びの発信の仕方を模索する。</p>
生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）			
<p>■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（i-checkの結果から）8年6名・9年5名計11名</p>			
調査内容	よく	まあまあ	ない
① 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	2	9	0
② インターネットを使って情報を収集することができますか。	10	1	0
③ ふるさと学では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	3	8	0

■本単元の学習に関する意識の状況				
調査内容		よく	まあまあ	ない
①	ふるさと（高森町や東学園校区）の良さや課題について、どれくらい知っていますか？	3	8	0
②	今までに、ふるさと（高森町や東学園校区）の活性化のために、何か取り組もうとしたことはありますか。	3	6	2
③	②で「よく・まあまあ」と答えた人へ→どんなことに取り組もうとしましたか？または、どんなことを考えましたか	ミサワ大豆づくり、交流会や地域のお祭りへの参加		
④	あなたが、ふるさと（高森町や東学園校区）について、強み（他の地域に誇れること）に感じていることはなんですか。	自然豊か、地域の方々との交流 長年途絶えることのない行事（祭りなど）		
⑤	今後のふるさと（高森町や東学園校区）での生活を安心して豊かにするために、あなたが力を入れるべきと思うものを次から3つ選んでください。	人口減少に関すること 高齢者の増加・福祉に関すること 農業・後継者問題		

■考察

以上の基礎基本の定着状況から、意識調査やこれまでの学習の様子から、生徒たちの地域の良さや魅力についての理解は高く、ふるさとを誇る気持ちも高い。特に9年生においては、昨年度の学びの発信をした経験から、さらに多面的な視点から課題を見つけようとする意欲がある。これらの実態をふまえ、昨年度に地域の良いところを発信した8年生とともに、自らの行動が社会貢献につながる意識をもてるよう学習を進めていく。

また、本単元に関する意識の状況から、普段から ICT を活用することで、多様な情報収集を行うことができているが、相手との目的に応じたコミュニケーションをとる力や実行できる具体的な取組について考え企画する力にはやや課題が見られる。

このような実態を受け、PBLを通して主体的に課題解決を行い、自らの学びが地域貢献につながるよう学習を進めていく。

3 指導に当たっての留意

< 研究の仮説及び視点 >

自立した学習者の育成 ～子どもがわくわくする PBL 単元構想を通して～	
1) 子どもがわくわくする PBL 単元づくり	<p>○「高森ふるさと学」並びに「各教科の学習」について、子どもも授業者もゴールを目指して課題を解決したいというわくわくするような課題解決型学習（PBL）の単元を構想し、実践をすれば、生徒が自ら課題を見出し、その課題を解決するために、意欲的に見通しをもって各教科の見方・考え方を働かせ、自分なりに（対話を含めた）個別最適な学び等の学習を通して最適解を考え、提案することができるであろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・視点：①目標の明確化 ②課題設定のための動機づけ ③課題解決の計画と実行 ④プロジェクトの発表 ⑤プロジェクトの振り返り</p> </div>
2) 朝活動の時間・放課後時間の活用・家庭学習の充実	<p>○放課後の自由学習時間をはじめとした学習時間・機会を確保し、自ら計画を立て、友人や先生に教えてもらったりしながら、児童生徒が自分の得意や苦手を知り、自分に合った学び方を見い出すことができるだろう。</p> <p>○家庭においても児童生徒が自分の目標の達成に向けて自ら学習計画を立て、学習をすすめる経験を積むことで、自分に必要な学習内容、学習時間を設定し、自ら取り組む力を高めることができるだろう。</p>

1) 子どもがわくわくする PBL 単元づくり

（視点② 課題設定のための動機付け）

○生徒自らが考案した企画（政策）を子ども議会で提案し、町長や町当局の幹部職員、議会議員に直接届けることで、「提案が実現するかもしれない」という期待感や主体的な動機付けをもてるようにする。

（視点③ 課題解決の計画と実行）

○「学びシート」の活用により、単元全体の流れや個人の進捗状況の可視化をすることで、生徒が見通しを持って意欲的に活動を展開できるようにする。

（視点④ プロジェクトの発表）

○発表の場として、3つの機会を設定している。Project 1では、町の役場職員などの専門家のほかに、同じようにふるさとの課題解決を目指す他地域の学校（福岡県・大島学園）とリモート授業で発表する機会を設定する。Project 2～3では、地域協働による「ひめゆり文化祭」と「子ども議会」を設定し、地域や行政への発信とそこでの評価される体験をすることで生徒の学習意欲が高まり、確かな達成感が得られるようにする。

2) 朝活動の時間・放課後時間の活用

○朝活動、放課後学習の時間では、8、9年生合同でブロック活動を行っている。「掲示物チーム」「スケジュールチーム」「企画チーム」の各プロジェクトに分かれ、それぞれの生徒が様々なアイデアを出し合いながらブロック運営をしていくことで、ブロックでの課題を自分事として捉え、自ら役割を見つけて責任を持って行動していくことができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

○高森町の活性化に向けて、必要な情報を選択したり複数の情報を比較関連付けたりしながらより提案性の高い企画書について考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>① 単元のゴールを確認し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>② 個人またはチームごとに本時のめあてを設定する。</p>	<p>○アイデアシートや学びシートをもとに、前時までの学習を振り返ることができるようにする。</p> <p>○それぞれのゴールを確かめ、学びシートから本時のめあてを設定できるようにする。</p>
		<p>【めあて】高森町の活性化にむけて、企画書をブラッシュアップしよう</p>	
		<p>【学習課題】</p> <p>① 企画書作成のために、どんなことに気を付ければ必要な情報を収集できるだろうか。</p> <p>② 考えた企画をどんな手法でどのように表現すれば、相手に伝わるだろうか。</p>	
展開	35分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>① 各プロジェクトまたは個人で考えた企画書を基に、専門家や生成 AI などを活用し、アドバイスをもらう。</p> <p>【予想される学習形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家と協働し、企画書を練る。 ・表現の工夫について、テレビ局スタッフに尋ねる。 ・自治体等とつなぎ、情報収集する。 ・個人で企画書を練る。 ・生成 AI に尋ねる。 など <p>◇観光スタンプラリーを実行させる際に、移動手段としてどのような方法が考えられるだろう。</p> <p>◇棚田オーダー制度の実現のために、私たちにできることはなんだろう。</p> <p>◇子どもの減少を食い止めるために、もっと子供向けの企画を実施できないだろうか。</p> <p>◇移動型図書館をするために、どんなルートで計画すればいいかな。</p> <p>◇農業体験をもっとたくさんの人に体験してもらうために、どんな風に募集をすればいいかな。</p> <p>◇町のお助け隊を実現させるために、社会福祉協議会の人と一緒にできることを出し合おう。</p>	<p>○専門家と協働し、自分たちの企画書を修正したり情報を自己選択したりと、様々な解決方法を試し、個別最適な学びができるようにする。</p> <p>【具体的評価規準】観点【思】③</p> <p>○収集した情報から課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考えている。 (方法：学びシート・発言・行動観察)</p> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○これまで学習してきた内容や地域に対する課題意識を振り返らせ、課題解決に必要な情報を選択できるように助言する。</p> <p>○友達や専門家の意見を聞いてよいと思ったことについて発言を促す。</p> <p>.....</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決を図るために、その目的に応じた ● 質問相手を自分で選択し、他者の意見を取り入れながら、よりよい企画にしようと、 ● 意欲的に話し合っている。 <p>.....</p>
終末	10分	<p>3 学びを振り返る。</p> <p>① 個人で立てためあてに対するまとめを行い、本時の活動を振り返る。</p> <p>◇今日専門家の方と話をし、たくさんの学びがあった。みんなで考えたことや学んだことを次の学習に生かしていきたい。</p> <p>② グループで共有する。</p> <p>◇次回までにプレゼンの構成を決めておこう。</p> <p>③ 全体で共有する。</p> <p>◇それぞれが、専門家の意見を参考にしながら学習ができてよかった。子ども議会に向けて、もっと企画を深めていきたい。</p>	<p>○それぞれのめあてに対して、わかったことわからなかったことについて学びシートにまとめさせる。</p> <p>○自らの学びや、プロジェクトの学びを把握し、調整したり、新たな問いを設定したりするなど、学びを自覚できるようにする。</p> <p>○学びシートを共有し、今後の学習計画について見通しを持てるようにする。</p>

【板書計画】

めあて	高森町の活性化にむけて、企画書をブラッシュアップしよう	進捗状況															
【学習課題】	○企画書作成のために、どんなことに気を付ければ必要な情報を収集できるだろうか。 ○考えた企画をどのように表現すれば、相手に伝わるだろうか。	<table border="1"><tr><td data-bbox="989 280 1093 347">棚田 PJ</td><td data-bbox="1101 291 1149 324">➡</td><td data-bbox="1165 280 1348 313">農林政策課と相談</td></tr><tr><td data-bbox="989 353 1093 421">福祉 PJ</td><td data-bbox="1101 365 1149 398">➡</td><td data-bbox="1165 353 1348 387">子ども未来課と相談</td></tr><tr><td data-bbox="989 427 1093 495">観光 PJ</td><td data-bbox="1101 439 1149 472">➡</td><td data-bbox="1165 427 1348 461">政策推進課と相談</td></tr><tr><td data-bbox="989 501 1093 568">お助け PJ</td><td data-bbox="1101 512 1149 546">➡</td><td data-bbox="1165 501 1348 535">KABの方と話し合い</td></tr><tr><td data-bbox="989 575 1093 642">図書 PJ</td><td data-bbox="1101 586 1149 620">➡</td><td data-bbox="1165 575 1348 609">生成 AI から情報分析</td></tr></table>	棚田 PJ	➡	農林政策課と相談	福祉 PJ	➡	子ども未来課と相談	観光 PJ	➡	政策推進課と相談	お助け PJ	➡	KABの方と話し合い	図書 PJ	➡	生成 AI から情報分析
棚田 PJ	➡	農林政策課と相談															
福祉 PJ	➡	子ども未来課と相談															
観光 PJ	➡	政策推進課と相談															
お助け PJ	➡	KABの方と話し合い															
図書 PJ	➡	生成 AI から情報分析															
本時の流れ	<ol style="list-style-type: none">① 前時の振り返り② めあてを立てる③ 先生の話④ それぞれの活動にはいる⑤ 振り返り																

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

学習シート（8・9年 高森ふるさと学）